

サブカルチャー実践、趣味実践の公共性や対抗性に関する研究

人文科学系・人文社会学領域

陳 怡禎

准教授

CHEN ICHEN

博士（学際情報学）（東京大学）



■研究キーワード 社会運動 / ファン文化 / サブカルチャー / ファンカルチャー / ジェンダー / カルチュラル・スタディーズ / 台湾研究

■主な所属学会 日本社会学会 / 日本メディア学会 / カルチュラルスタディーズ学会 / 文化研究学会（台湾）

■研究者総覧

研究者総覧

研究概要

ファン研究やサブカルチャー研究の視点より、女性の趣味文化に焦点を当て、女性は既成の社会構造の中にいかに自らの“文化的場所”を構築しているのか、さらに趣味実践を通じて社会規範の“隙間”において行われる新しい対抗の形を作り上げていくのかを研究しています。

具体的に、以下の三つの研究テーマに取り組んでいます：

1. 東アジアの社会運動における社会運動実践や日常的サブカルチャー実践に焦点を当て、政治活動における趣味実践の戦略／戦術性を考察。
2. 生成AIなどの新興テクノロジーにおけるジェンダーの不正義に着目し、女性ファンによるAIアイドル表象の消費を考察。
3. 趣味といった要因によって国際移動する女性移民がいかに異郷で趣味を中心としたコミュニティを構築するのかを考察。



台湾の若者たちは「かわいい文化」を用いて政治参加している。



趣味実践と政治運動との

交差を考察した単著

アピールポイント

研究者はこれまで、研究対象を「台湾における日本大衆文化ファン」や「台湾や香港の社会運動参加者」、「台湾における“日本”に関する記憶の受容者」と網羅しているが、一貫して趣味研究やファン研究の視点から、東アジア（中でも「台湾-日本」）における文化の流通・受容・実践・抵抗について研究してきました。

今後は、以下の三つの軸で研究を展開し、国際的な学術貢献を目指します。

第一に、台湾を含む東アジアの政治運動を研究対象に、社会運動論とサブカルチャー論の両側面から若者文化の動態とその政治的意義を解明します。この研究は、趣味実践がいかにして対抗的公共性を形成するのかを明らかにし、東アジアのファン研究に新たな理論的枠組みを提供することを目指しています。

第二に、ジェンダー指数に関連する調査では、常にアジア上位に位置する台湾に焦点を当て、女性がソーシャルメディアや生成AIなどの新興テクノロジーにおけるジェンダー表象をどのように受容・消費しているかを分析します。本研究は、ジェンダー研究の国際的な議論に新たな知見を加えることを目的としています。

第三に、すでに「移民社会」である日本において、経済的・政治的要因ではなく、趣味や愛好を動機として移住した外国籍女性に注目し、彼女たちがいかに能動的に新たなコミュニティを構築しているかを考察します。本研究は、ジェンダー研究の観点から、感情的要因を通じた文化的共生の可能性を探り、国際社会での文化交流促進に寄与する知見を提供します。